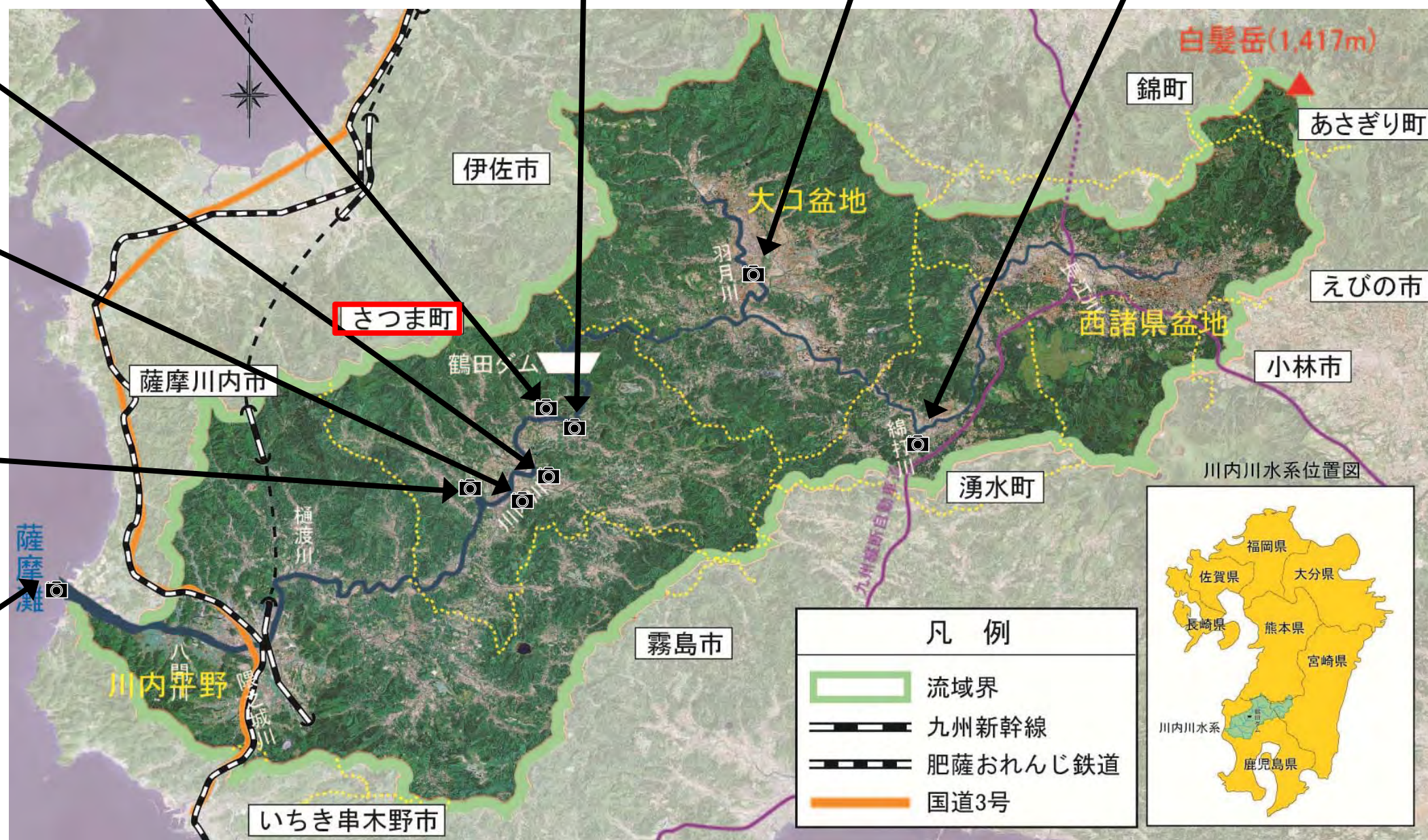
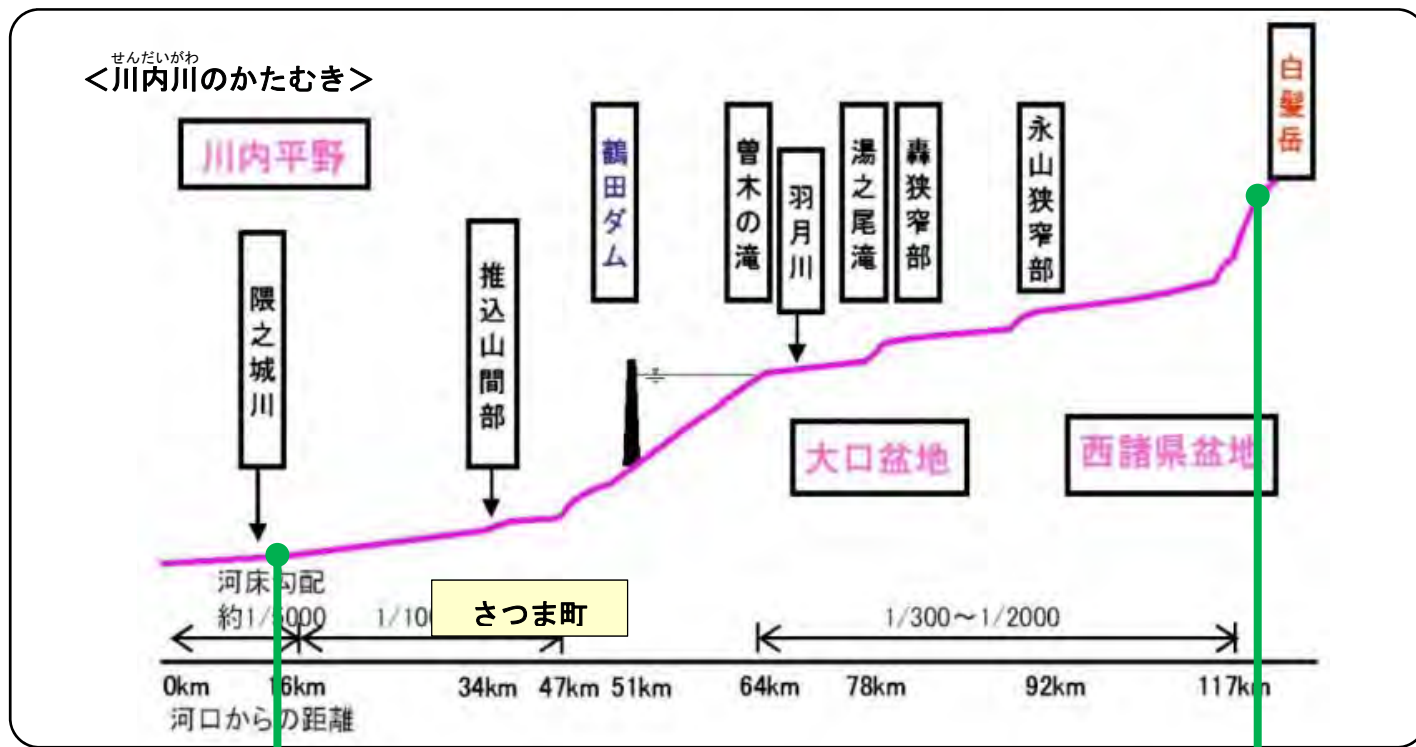


せんだいがわ  
■川内川のように





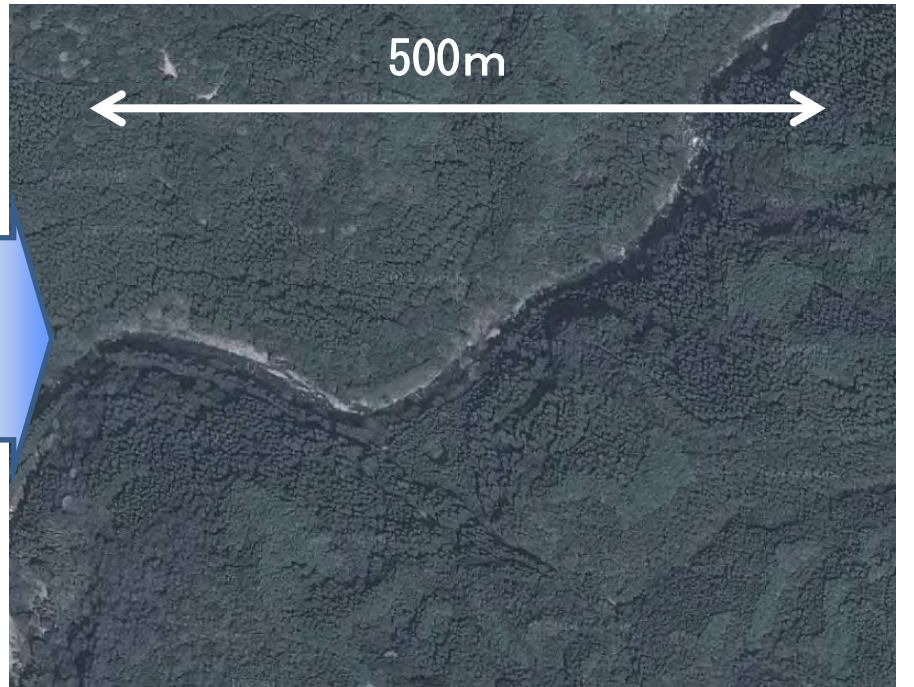
■山の中と平地の川のように



平地

山の中

川の大きさ



川原のようす



川原の石のようす





■上流・中流・下流のようす



みやまき  
[宮崎県えびの市]



みやまき  
[宮崎県えびの市]



かごしま きつませんたい  
[鹿児島県薩摩川内市]





■<sup>せんだいがわ</sup>川内川のふだんの様子と大雨のときの様子

大雨の前の様子



大雨で川の水の量がふえたときの様子



<sup>せんだい</sup>大雨のときの川内川の様子(平成18年7月19日~7月23日)





せんたい 川内川の災害を防ぐふう(分水路)  
 ふせ ぶんすいろ




ぶんすいろ  
**【分水路】**  
 川の水があふれたときに、水が流れる道をふやし、川の水をあふれにくくします。

さつま町宮之城地区

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所

せんたい 川内川の災害を防ぐふう(堤防)  
 ふせ ていぼう

平成18年7月(さつま町楠元地区)



大雨で川岸がこわされて、川の水があふれた川内川。



ていぼう  
**【堤防】**



土を高く盛り上げて川の水があふれるのを防いでいます。

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所

せんたい 川内川の災害を防ぐふう(河道掘削)  
 ふせ かどうくっさく



川内川



かどうくっさく  
**【河道掘削】**

川底や川岸を掘って川の流れる場所を広げることで、川の水を多く流すことができます。洪水の時に、川の水位が低くなり、あふれることを防ぎます。



くっさく掘削

川内川

湧水町栗野地区

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所

せんたい 川内川の災害を防ぐふう(堤防)  
 ふせ ていぼう



川内川



さつま町虎居地区

ていぼう  
**【堤防】**

堤防がない、あるいは低いところに土を盛って、堤防をつくります。堤防をつくることで、洪水のときに水を川の中に閉じこめて、家や田畑を守ります



国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所



■川内川のように



川内川のように

山の中を流れる川のように

平地を流れる川のように

河口付近の川のように





轟の瀬では江戸時代、川内川を利用して年貢米を舟で運べるように、「のみ」「金づち」で巨大な岩石を切り開く大工事がされた歴史があります。現在の轟の瀬付近には、かつて滝がありましたが、工事で削られてなくなり、瀬になっています。

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所



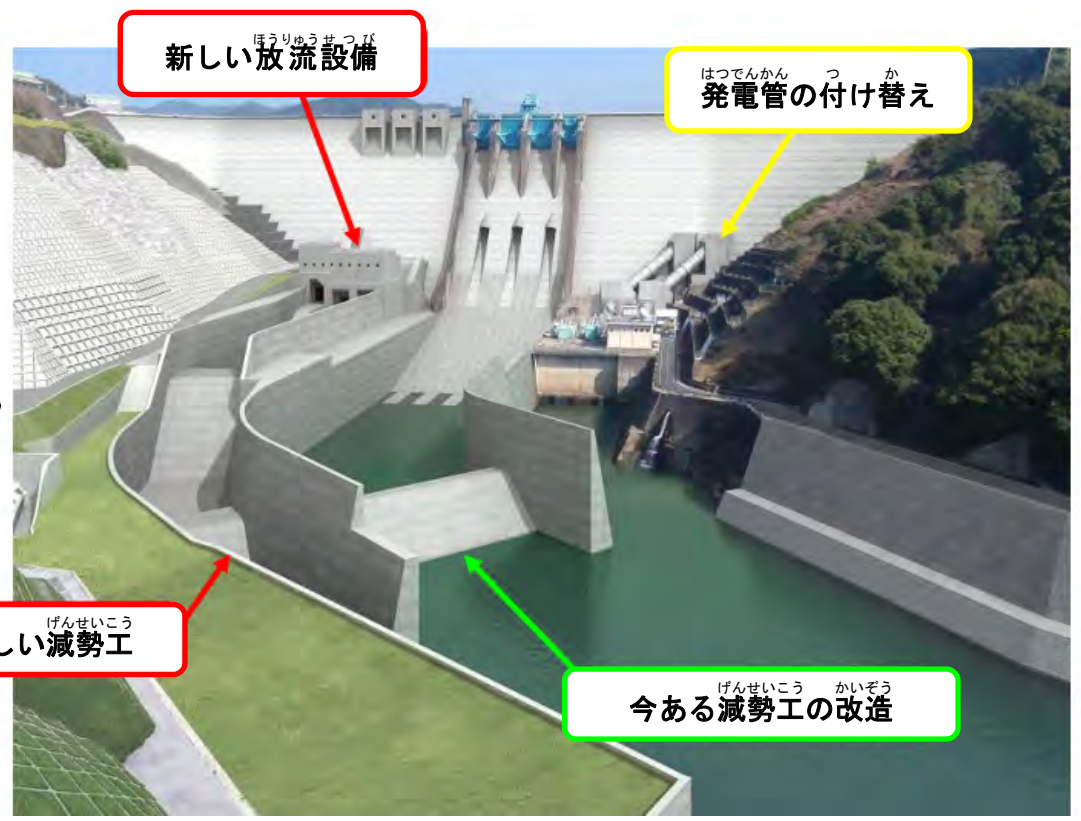
工事のときに、川にすむ魚や昆虫などの生き物のことも考えて、川岸の流れをゆるやかにしたり、大きな石を積み上げてすきまをつくらしています。

さつま町虎居地区

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所



ためられる水の量をふやす工事をしています



※現時点の完成イメージです。



■これまでの水害

さつま町<sup>とらい</sup>虎居地区などでは、逃げ遅れた人<sup>に</sup>たちを、救命ボート<sup>おく</sup>などで救出しました。



■これまでの水害



しょうわ ねん がつ さつま せんだいし とうごうち く  
▲ 昭和32年7月(薩摩川内市 東郷地区)



しょうわ ねん がつ さつま せんだいし しせんた きかわ  
▲ 昭和46年8月(薩摩川内市 支川高城川)



しょうわ ねん がつ ちよう  
▲ 昭和47年7月(さつま町)



へいせい ねん がつ さつま せんだいし むこうだ ちく  
▲ 平成5年8月(薩摩川内市 向田地区)



へいせい ねん がつ ゆうすいまち なかつかわ ちく  
▲ 平成9年9月(湧水町 中津川地区)



へいせい ねん がつ し むかえ ちく  
▲ 平成17年9月(えびの市 向江地区)